

社会福祉法人 令和4年4月号



# 葦の家福祉社会だより



これから地域とともに！



※過去の写真を使用しているため全体的に画像処理を行っています。

葦の家の前身の無認可作業所では、法人化・認可施設開所をめざし、資金集めを目的とした「あったかフェア」というバザーイベントを毎年開いていました。その後、無認可時代の恒例行事であったこの「あったかフェア」は認可後の施設にも受け継がれ、施設を開所した平成10年にはお隣の長尾中学校の敷地をお借りし、「あったかフェア '98」を開催しました。イベントそのものが資金集めのものではなくなったため、その翌年から、仲間たちのことを広く地域の方々に知っていただくイベントとして「わはは祭り」を毎年開催するようになりました。当初はステージを中心とした「仲間たちの発表の場」としての色合いが強かったのですが、来場者の皆さんにも喜んでもらえるよう、模擬店やバザー、ゲームコーナーなどを充実させ、笑顔あふれる楽しいイベントの中で、仲間たちのことや障がい福祉のことを知ってもらう機会としての「わはは祭り」へと変化していきました。はじめは施設の職員中心で準備を進めていましたが、規模が大きくなるにしたがい、地域の方のご協力も得ながら、「施設の祭り」から「地域の祭り」へと変化していきました。

葺の家ではこのように地域の方々に来ていただくだけでなく、こちらからも積極的に地域に出ていきたいということで、地域で開かれるお祭りや運動会、文化祭、防災活動、清掃活動などに参加し、地域の一員として地域の方々と一緒に活動を行ってきました。はじめはお試的な参加も多かったのですが、地域の方々も当たり前に入れてくださるようになり、事前準備から参加することも増えていきました。仲間たちの活動でも、ニュース配りやバザー出店など、地域に出ていく活動を徐々に増やしていきました。障がいが重くても自ら積極的に地域に出ていくという支援スタイルができ、後に開所した「えーる油山」でもその方針は大事にされてきました。

しかし、令和2年から国内でも感染が広がった新型コロナウイルスの影響により「わはは祭り」はもちろん、さまざまな地域行事は中止となりました。仲間たちの日常の活動も大きく制限され、工賃確保に必要なバザー参加もできなくなりました。仲間たちの活動を停滞させないようにと、新しい作業を開拓したり、感染リスクの低い外活動である農作業に力を入れたりと、皆で力を合わせてコロナ禍を乗り越えようとしています。

まだまだ新型コロナウイルスの影響は続いていますが、少しずつコロナ前の生活を取り戻してきています。2年連続で中止となった「わはは祭り」を今年こそは開催したいという思いから、昨年度から、法人では「WEB わはは祭り」を企画しました。仲間たちの元気な姿や、コロナ禍の中の仲間たちの様子をYouTube（ユーチューブ）上で見ていただきたいと、動画投稿の準備を進め、先月ネット上での公開を行いました。「わはは祭り」や地域活動の再開に向けた取り組みが始まっています。

## WEB わはは祭り

仲間たちやスタッフ、関係者による「みんなで踊ろう！わははサンバ」、タイムラプス動画で見る「見てみよう！仲間たちのアート活動！」、コロナ禍の中での仲間たちの活動をスライドショーで紹介する「コロナに負けないぞ！～仲間たちの活動紹介～」など、盛りだくさんの内容です。

この動画で仲間たちの元気な姿を見ていただくとともに、今年度の「わはは祭り」開催に向けてのはずみになればと思い制作しました。下記のQRコードを読みこんで、ぜひご視聴ください。法人ホームページからのリンクもあります！



わたしたちがご案内します！



このQRコードを  
読みこんでね！



すまいるエミちゃん



## 成人を祝う会を行いました



葦の家の仲間 1 名が成人を迎え、1/15（土）に「成人を祝う会」を行いました。参加人数も制限し、少人数での式でしたが、仲間たちからプレゼントや色紙を受け取ったり、来賓の方々からお祝いのメッセージをいただいたりと、成人したご本人にとっても貴重な体験になったのではないかと思います。今後も、葦の家の一員として更なるご活躍を期待しています！



## 農園作業

「WEB わはは祭り」の中でも触れていますが、コロナ禍の中でも思いっきり活動できる作業の一つとして農作業があります。現在、葦の家とえーる油山で計 3 か所の農地をお借りしているほか、施設近くの小さな畑や、りーど敷地内の小さな花壇でも、様々な野菜を育てています。

屋外であるため、換気を気にする必要もなく、マスクの着用が難しい仲間にとっても参加しやすい作業です。特別支援学校放課後等支援のこどもたちも活動に参加しています！

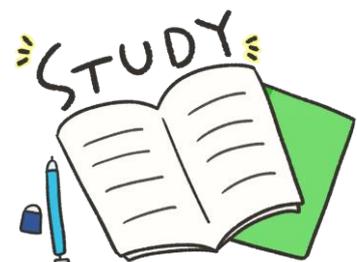
収穫した野菜は給食の食材等にも使ったのですが、バザーなどで販売することができなかつたため、主な販売先は職員や利用者家族となりました。なるべく多く買っていただこうと、「こんな調理の仕方をするとう簡単だよ、美味しかったよ」という情報を職員に紹介したり、フェイスブックに記事を書いたりしました。みなさん、喜んで買ってくれました！

これからも農園作業、がんばっていきます！



## 実践発表会中止

2 月に予定していた法人の実践研究発表会は中止となってしまいました。コロナ感染も落ち着いてきたので、密にならない「ポスター発表形式」で開催できるのではないかと、各事業所では準備を進めていたのですが、残念ながら、オミクロン株の感染拡大に伴い、中止せざるを得ませんでした。せっかく準備していたので、各事業所では感染が落ち着いたころに何らかの形での発表を検討しています。



# 令和4年度事業に期すこと

年が明け、新型コロナウイルス第6波により、法人の各事業も大きな影響を受けましたが、スタッフの努力によりほぼ通常の運営体制を回復しました。一時期、在宅サービスも含め支援を大幅に縮小、中止せざるを得ず、その間、利用者やご家族の方々に大きな不便やご負担をおかけしました。改めて在宅で暮らす障がいの重い方々のニーズや願いの大きさ、法人で提供している支援の意義を痛感しました。

令和4年度の事業計画の概要を後段にお示ししました。当法人は今年で法人化24年目を迎えますが、今年度は様々な意味で今後の事業展開の節目の年になると思います。大きなテーマを3つあげます。1つは、次年度を見据えた新しい運営組織作り。2つ目に、地域生活支援とスタッフの強化。3つ目は、樋井川3丁目に取得した土地へのえーる油山の移転新築プラン作りと、地域に貢献できる事業構想も含めたランドデザイン作り。これらの具体的な成果は、次期中期計画にも反映させたいと思います。



現在、旧優生保護法裁判が全国各地で行われていますが、本当に許し難い人権侵害です。障がいのある人が暮らしやすい社会は健常者も暮らしやすい社会です。「障がいがあっても地域でふつうの生活を」法人理念でもあるノーマライゼーションの思想を地域で実現し、広めていくことを法人のミッションとして事業を推進していきます。

---

## 令和4年度 法人事業計画

### I. 事業方針

新しい組織体制作りを行い、中期事業計画にもとづき、地域生活支援、日中活動の事業整備を行い経営課題に取り組む。コロナ後を見すえ、地域交流を前進させ、権利擁護の運動に参画する。

### II. 重点目標

1. 新しい組織、ラインによる事業体制作りをめざす。
2. 地域生活支援事業の推進体制を整備する。
3. えーる油山移転プロジェクトを前進させる。
4. 新給与体系、人事、労務体制を整備する。
5. 地域交流、地域防災の取組みを進める。
6. 次期中期計画の検討、策定を行う。
7. 管理職、リーダーの育成体制を作る。
8. ノーマライゼーション思想、法人理念により優生思想や差別をなくす運動に参画する。



(理事長 友廣道雄)



## 葦の家（生活介護）

### 感動の再会！

活動制限がある中、感染者が少ない時期に普段行かない大きな公園に行ったり、カフェの個室を貸し切って食事をしたり、紅葉の時期に出かけて記念撮影をしたりと、班活動に工夫を凝らした1年でした。そして、市内の感染者数が日毎に増え、仲間たちの自宅待機期間が長く続いたあとの出勤日、「WEB わはは祭り」の撮影で仲間たちは、2年ぶりにわははあーとくん（葦の家キャラクター）と再会しました。わははあーとくんを見かけるとすぐに手を振り笑顔になる仲間、思わずチューしそうになる仲間、「わははあーとくん！」と声をかける仲間。この2年いつものわはは祭りは開催できませんでしたが、この日の仲間たちの笑顔に、わははあーとくんと会えるのを楽しみにしていた仲間たちの姿に、私たち職員が元気をもらいました。

このことに限らず、いろんな制約を受ける中、仲間たちの活動の機会を保障したい、楽しみの場はなくしたくないという職員の気持ちが、「どうしたら『できない』を『できる』に変えられるか」と考え、実践に繋がったと思います。発想の転換、ピンチはチャンスと言われますが、身をもって体現している職員集団を頼もしく感じ、一緒に働く仲間として誇りに思います。

（サービス管理責任者：岡村）



## えーる油山（多機能型：就労継続B型+生活介護）

### コラボ初企画！ あ～す保育園との交流♪

えーる油山の3月のウインドウ展覧会（事業所の窓に絵を展示するもの）は、あ～す保育園卒園児4名の自画像でした。「卒園おめでとう」と題して飾りつけを行いました。仲間にも呼びかけたところ、花の飾りをつくってくれたり、桜の木を制作したりと、お祝いの気持ちをこめたものが出来上がりました。後日、園児たちも観にこられ、窓越しではありましたが、えーるの仲間からも「おめでとうございます」と声をかけ、「ありがとうございます」とかわいい声が返ってくるなど微笑ましい一場面も見られました。

コロナ禍で直接の交流が少なくなっている中、アートでつなぐ地域の交流としてもウインドウ展覧会の醍醐味を見出した出来事でした。これからの展開も楽しみです。

（支援員：山内）



# 特別支援学校放課後等支援事業（屋形原・若久）

## たんぽぽルームで“わははサンバ”ブーム 到来 ♪♪

WEB わはは祭りへ向けて、若久たんぽぽルームの児童・スタッフでわははサンバを練習しました！プロジェクターでダンス動画を投影すると、自然とこどもたちが集まり、たんぽぽルームは素敵なダンスルームになりました♪



残念ながら、今回のWEB わはは祭り動画にこどもたちの元気なダンス映像は間に合いませんでしたが、近いうちに「たんぽぽルームキッズダンス動画」を作って、皆さんにお披露目したいなあ…と考えています📹

## 卒業生をお祝いしました・・・



3月2日に特別支援学校高等部の卒業式が行われました。屋形原どんぐりルームからは3名、若久たんぽぽルームからは1名の児童が巣立っていきます。ルームでもお祝いの会を開きました。ドライブに出かけたり、在校生・スタッフからお祝いの出し物やプレゼントを送ったりして、卒業生をお祝いしました。卒業生の今後の更なる活躍を、ルーム職員一同こころより願っております🌸。

（責任者：是永）

# ヘルパーステーションほっとほっと・ショートステイ

## 仲間の笑顔づくりは職員から😊

利用者の素敵な表情を見ると、支援現場が一瞬にして和みます。利用者Aさんは普段、部屋の隅で1人で過ごされることが多いです。K職員の声や雰囲気が好きだったのか、部屋の遠くから話し声、笑い声が聞こえると、一緒になって笑っていた場面がありました。利用者Bさんは、普段ゆったりTV番組を観て過ごされますが、ヒーロー戦隊のDVDが流れると身を乗り出しニコニコ顔で視聴されました。私たちがそれまで知らなかった利用者の好みがあった時は非常に嬉しく思います。

実はショートステイリーダーは職員配置変更による「変身！」（ヒーロー戦隊風）があり、他部署から配属されたK職員が活動中の利用者の細かな様子、既存職員の支援力、一番は「笑顔」が多い現場だと気づき教えてくれます。新しい発見や笑顔が生まれるように笑いの絶えない現場づくりに励みます。

（支援員：臼井）



## 相談支援（基幹相談支援センター・相談支援センターあしっぷ）

### 法人の第4次中期事業計画（地域貢献参画部会）を通しての地域とのかかわり

葦の家福祉会では第4次中期事業計画を通して地域とのかかわりを行っています。地域貢献参画部会では、①地域ニーズの把握 ②地域における災害への対応の取り組み ③地域への障がい理解・啓発の取り組みや地域交流室を活用した交流や活動 ④制度のはざまや地域の課題に対応するための事業等の4点を地域貢献参画を達成するための方法として掲げています。

相談支援センターは、法人におけるこの地域貢献の中心的な役割を担う部署であると考えています。現在、その活動の一つとして、樋井川流域にある民間団体のゆるやかなネットワーク「樋井川流域サミット」へ参画しています。そのネットワークでは、「わくわく」「楽しい」「ノリ♪」「会話」「子ども」「ブランドづくり」などをキーワードとして、地域のニーズを掘り起こしたり、それぞれの団体の強みを活かしてお互いに支え合えることはないかと具体的な関与の仕方を話し合ったりしています。8月には、このサミットの取り組みを「樋井川村の市民普請」として福岡未来創造プラットフォームに応募、補助金申請も通りました。“多様性と入り交じり”をテーマに今後の展開を検討していく予定です。自分たちができること、行政や学校ではなかなかできないようなことを、民間や地域人材でできることから少しずつ行動に移していければと思っています。

（管理者：西郷）



## グループホーム（すてっぷ・すまいるホーム）

### 事前準備の大切さ ～BCP（事業継続計画）の活用～

令和4年1月下旬新型コロナウイルス感染拡大の影響がすまいるホームにも押し寄せてきました。仲間の発熱や職員の陽性者が発生したことで新型コロナウイルス感染症対応をせざるを得ない状況となりました。すまいるホームは、昨年5月にも新型コロナウイルス感染症対応で仲間たちは約3週間通所先に行けない状況になっていました。事前準備として、5月の経験や反省を活かして、新型コロナウイルス感染症対策のBCP（事業継続計画）の作成、職員への情報共有を図っていました。BCP（事業継続計画）とは、緊急事態においても事業を継続するための事前計画であり、葦の家福祉会では各事業所単位でそれぞれの福祉サービス上の特徴を踏まえた計画を作成しています。今回は、実際にBCPを活用して新型コロナウイルス感染症の対応を行っていく中で感じたことを伝えたいと思います。

まず、すまいるホームでは、家庭的な雰囲気の中で食事を行えるように工夫をしています。彩りのある食事や暖かみのある食器を活用しています。しかし、感染拡大を防止することを考えると紙皿での食事提供、お弁当などが続き、仲間たちもストレスを感じている様子が見られました。暮らしの保障と家庭的な雰囲気を考えるとジレンマを感じさせる期間でした。

また、日中にホームで過ごすことになったため、ホームの職員で支援をすることとなります。職員もBCPの内容を事前に共有していたため、BCPに基づいた動きを行うことが出来ました。緊急時は混乱や不安がありますが、事前に準備してくれた職員の方々を通して事前準備の大切さを実感しました。

今回のBCPの活用を通して見えてきた課題の1つとして、ホームの職員や仲間たちに陽性者が増えた場合、法人職員や他の関係機関から応援を呼ぶこととなると思いますが、不慣れな職員が支援に入り、仲間の生活が維持できるのか。また、すまいるホームの仲間の特性上、行動障がいの方、医療機関と連携が必要な方が多い重度知的障がい者のホームなので、本当に仲間たちの暮らしを守ることができるかということが今後のBCPでもっと精査していかないといけないことだと感じました。

令和4年度のすまいるホームでも今回の対応で良かった点や課題点を振り返りながら、これからは新型コロナウイルス感染症や災害時（地震、水害など）を含めた緊急時に対応できるように事前準備を大切にしていきたいと思います。

（支援員：志垣）

## えーる油山の移転計画を進めています！

前号（12月号）でえーる油山の移転先確保に向けた動きと、物件情報提供のお願いの記事を掲載していましたが、地域の支援者からの紹介があり、葦の家近くの土地物件を取得しました。これからえーる油山の移転に向け、準備を進めていきます。

令和6年度の開所を目指します。今後の進捗状況については、本誌でも順次お知らせしていきたいと思います！



## 次年度スタッフの採用活動を始めています！



令和5年度からのスタッフ採用活動が3月から始まっています。ここ数年、福祉以外の専門課程の学生さんが応募されることも増えてきました。仲間たちの安心・安全な生活、やりがいの持てる活動づくりなど、楽ではない仕事ですが、そのことを楽しめる方に来てもらえたらと思っています！

### 社会福祉法人 葦の家福祉会だより 令和4年4月号

発行日 令和4年4月1日

編集・発行 社会福祉法人 葦の家福祉会

〒814-0153 福岡市城南区樋井川4丁目1-17

〈代表〉Tel 092-873-7481 Fax 092-834-3362

E-mail asinoie@blue.ocn.ne.jp

URL <http://www.ashi.sakura.ne.jp>